

管ビンに入れた抵抗力のない若い職アリに対して、トゲアリの雌は、大顎を開いて職アリのの上に覆いかぶさるようにしたが、結局咬みつくようなことはしなかつた。次に更に1匹クロオアリの職アリを入れてみた。これは羽化後かなり日数が経つたと思われるもので、管ビンの中でかなり活潑に歩きまわつた。この職アリは、トゲアリに出会うと、腹部を下前方に曲げて警戒の姿勢をとつた。しかし争いにはならなかつた。その後しばらく観察していると、今度はトゲアリの雌が職アリの上に馬乗りになり、そのクロオアリの職アリの頭部を大顎ではさむ行動を何回も行なつた。

クロオアリの職アリは、殆んど抵抗は見せず、かえつて蜜を吐き出して大顎の間のため、トゲアリに与えようとしたこともあつたが、トゲアリは反吐は受けず、再びこの職アリに大顎を開いて咬みつこうとした。クロオオアリの方は、トゲアリに何度も咬みつかれても、全く損傷を受けた様子はなかつた。

1.17 p. m. このようなトゲアリの特殊な行動を認めた後、トゲアリを取り出してシャーレに入れた。このシャーレには、湿らせた木屑を巣材材料として小室を作り、小室の上にガラス板をかぶせて室内が観察出来るようにし、シャーレにはガラス板でふたをしておいた。

27-IX-'61. トゲアリの雌は自分で巣室を作つてこもる様子はなく、シャーレの中を歩きまわつているので、用意しておいたクロオオアリの群に入れることにした。巣箱は図のような型で、寄主としては、1961年9月24日に前述したシャーレから取つたクロオオアリの職アリ12匹を入れて飼育していた群を使用した。

4.45 p. m. トゲアリの雌をクロオオアリの職アリのいる観察巢に入れる。トゲアリが巣室に入り、クロオオアリの職アリと出会う。クロオオアリは、体を丸めて警戒の姿勢を取り、又ある職アリはトゲアリの肢にかみついた。しかし、しばらくして放し、激しい争いはおこらない。

4.52 p. m. 1匹の職アリが、トゲアリの腹柄節に下から咬みつつき、トゲアリはふり切つて逃げる。職アリが咬みつつきに来ると、トゲアリは体を高く持ち上げることがある。

5.05 p. m. クロオオアリの攻撃もあまり激しくないので、そのままにして様子を見ることにした。

6.28 p. m. クロオオアリの1匹が、トゲアリの前肢に咬みついている。トゲアリがそのクロオオアリの頸部を大顎ではさんでいる。他のクロオオアリが、雌の腹柄節に咬みつく。

10.25 p. m. トゲアリはクロオオアリの群の中で、1匹の職アリのの上に位置し、その職アリの胸をくわえている。巢を明るくすると職アリを放したが、職アリは傷を受けてはいな

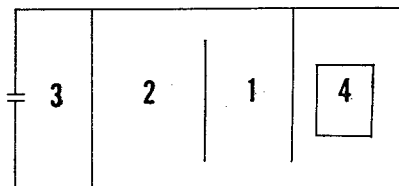


Fig. 1. Diagram of the observation cage. This is a flat oblong box, whose frame, ceiling and floor are of glass plate. (1) and (2) are nest rooms, (3) room packed with moist absorbent cotton, and (4) foraging room. The partition between (2) and (3) is made of wooden plate, through which wet is given to the nest cells.